

# 7 共に生きる生活

## 教師用指導例

6年 開隆堂版 p.28

めあて 生活をよりよくするためのくふうを考えよう。

【学習指導要領との関連】内容 A 家庭生活と家族

(3) 家族や近隣の人々とのかかわりについて、次の事項を指導する。

ア 家族との触れ合いや団らんを楽しむ工夫をすること。

イ 近隣の人々とのかかわりを考え、自分の家庭生活を工夫すること。

【アクティブ・ラーニングを意識した授業の流れ】

### 1 課題を見つける

**説明1** 「わたしたちの生活と地域」という勉強をします。家庭科楽習ノート28ページを開きます。

**発問1** 【①やってみよう】。ある町の様子です。絵を見て、分かったこと、気がついたこと、思ったこと、どんなことでも構いません。できるだけたくさん、お隣の人と問い合しましょう。

**指示1** 【①やってみよう】。地域の環境がよくなるために必要なところが青で囲まれています。シールの㊦にあてはまるシールを貼ります。

**指示2** 貼れた人は、なぜそれが地域の環境が良くなることにつながるのか、その横に理由を書いておきます。

**指示3** できた人は、㊧～㊨までも同じようにやってみます。  
※できたら答え合わせをする。

### 2 課題を追究する

**発問1** ノートの町と同じように、自分の生活の仕方や地域の環境がもっとよくなったらいいなと思うことがありますね。自分が気になっていることを、【②調べよう】の気づいたことに書きます。  
※物やエネルギーの使い方、資源を生かす活動、地域社会でのルールやマナーなどについて考えさせるとよい。

**説明2** どんな問題があるか、班（グループ）ごとに発表し合います。

**指示1** 話し合えたら、改善のためのくふうを書いておきます。

**指示2** 改善のためのくふうを班（グループ）で発表し合います。その後、いいと思ったものを班で一つ黒板に書きに来ます。

※書けたら前に持ってこさせ、黒板に書かせて待たせておく。

(以下のような記入の例を参考として示してもよい。)

記入例	気づいたこと	改善のためのくふう
物の使い方	お店のセールで調理の材料をたくさん買い、結局くさらせてしまった。	ごみを増やさないように、調理の材料は計画を立てて、食べる分だけ買う。
エネルギーの使い方	電気ストーブの温度はなるべく高くして、日中はずっとつけている。	エネルギーを節約するために、ストーブの置き方を変えたり、重ね着をしたりする。
資源を生かす活動	燃やすごみと空きかん・ペットボトルを同じ袋に入れて捨ててしまう。	空きかんやペットボトルを資源として再利用できるように、分別して出す。
地域社会でのルール	地域のごみ置き場がカラスで荒らされて、きたなくなっていた。	カラスが荒らさないように、ネットをはってもらえるよう町会の方をお願いする。
地域社会でのマナー	横断歩道前の点字ブロックの上に、自転車がとまっていた。	地域の決まった場所に自転車をとめるようにポスターで呼びかけ、自分も気をつける。

### 3 討論する 4 異なる考えを認める

**指示3** それでは黒板の前に出て発表してもらいます。気づいたことは○○です。改善のために、○○をしたらいいと思います、のように班ごとに発表します。

今の意見に、質問や付け足し、反対意見がある人はいますか。立って意見を言います。

質問、反対意見が出されたら、書いた人は必ず立って答えます。

答えられない時は、『調べます』や『答えられる人いますか』と聞いてみます。

### 5 まとめる

**説明1** 今回は、わたしたちの住んでいる地域について改善策を考えることができました。これから中学生になり、地域で活躍することがますます期待されています。自分たちの生活のしかたや地域をよりよくするという視点を持ち続けていきましょう。

#### 板書の例

気づいたこと	改善のためのくふう
お店のセールで調理の材料をたくさん買い、結局くさらせてしまった。	ごみを増やさないように、調理の材料は計画を立てて、食べる分だけ買う。
電気ストーブの温度はなるべく高くして、日中はずっとつけている。	エネルギーを節約するために、ストーブの置き方を変えたり、重ね着をしたりする。
燃やすごみと空きかん・ペットボトルを同じ袋に入れて捨ててしまう。	空きかんやペットボトルを資源として再利用できるように、分別して出す。